

# ゆめのか(本圃)

県央地域農業振興協議会技術者会野菜部会

月	旬	作型	主要作業	作業の要点	備考
7	上			<b>&lt;土づくり&gt;</b> ・稲(麦)ワラ2t/10a、石灰窒素40kg/10aを6月中までにすき込み、畝立て後、パーク堆肥100袋/10a混和する。	・稲わらのかわりにソルゴーを本圃に6月上旬までに播種し、石灰窒素20～60kg/10aを入れ、7月中旬刈り込みすき込む。
	中				
	下				
8	上		<b>土壌消毒</b> 炭そ病 萎黄病 センチュウ	<b>&lt;土壌消毒&gt;</b> ・薬剤による消毒または太陽熱消毒 <b>&lt;基肥施用&gt;</b> ・土壌分析を必ず行い、土壌分析に基づいた基肥施用を行う。 ・基肥は定植予定より7日前に施用する。 ・初期成育を旺盛にし過ぎないため、全窒素量の60%分を基肥、40%をマルチ前に追肥する。 <b>&lt;畝立て&gt;</b> ・株冷は8月末までに、普通ポットは9月10日までに完了する。 ・適当な土壌水分の状態で行い、練り込まないようにする。 <b>&lt;栽植様式&gt;</b>	[土壌分析結果に応じて] ・微量元素(ミネラル)の施用 連作5年未満 10kg/10a 連作5年以上 20kg/10a 畝施用 ・パーク堆肥の施用 株元に施用し、クラウン部の乾燥を防ぐ。(100袋/10a) ・根張り、不定根発生促進 発根促進剤の施用 ・葉かぎ 黄化、褐変葉のみマルチ後に除去する。
	中				
	下				
9	上	普通ポット 株冷	<b>株冷定植</b>	<b>&lt;適期に定植できる&gt;</b> 古ビニール等で雨よけをしておく。 <b>&lt;定植&gt;</b> ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する。 ・定植は鉢土がかくれるように行う(浅植に注意) <b>&lt;活着促進&gt;</b> ・定植後は必ず手かん水で鉢土と本ぼの土がなじむ様に十分かん水を行う。 ・定植後は常にクラウン部が湿った状態を保ち、定植7日後までに活着させる。	・根張り、不定根発生促進 発根促進剤の施用 ・葉かぎ 黄化、褐変葉のみマルチ後に除去する。 <b>&lt;芽の整理&gt;</b> ・ゆめのかはわき芽の発生が多いので、収穫開始までに定期的にわき芽1～2本以内に整理する。
	中				
	下				
10	上	普通ポット かん水の徹底	<b>普通ポット定植</b> <b>かん水の徹底</b> <b>病害虫防除</b> ヨトウムシ類、ハダニ	・マルチ被覆までは、クラウンと畝の肩部が乾燥しないようにかん水するが、生育が旺盛になる様であればかん水の間隔をあける。 ・基本的に定植直後の液肥のかん注はしないが、活着が悪い場合は1～2回液肥、発根剤を施用し活着させる。 <b>&lt;マルチ被覆&gt;</b> ・第2果房の分化確認後、被覆を行う。 ・被覆後は、乾燥に注意しながらマルチの裾はめくっておくが、乾燥がひどい場合は早めにおろす。 <b>&lt;ビニール被覆&gt;</b> ・第1果房が出蕾～開花する頃(目安10/20～10/30)に行う。 ・被覆後は高温になりやすいので、温度管理に注意する。サイド、妻面も換気できる範囲で換気に努める。北西風による乾燥で莖葉が傷まないように注意する。 <b>&lt;灰色かび病対策&gt;</b> ・第1果房の頂果～3果までは花弁を手で除去する。 <b>&lt;休眠防止対策(電照)&gt;</b> ※電照は、芯葉の色、状態、着果負担を考慮して行う。 開始時期:株冷11/15～20日頃 普通 11/25以降 処理時間:間欠型 日没から日の出まで1時間に15分照明 日長延長型 連続照明時間を2～3時間から始め草勢に応じて調整する。 ・第1葉が厚い葉を常に展開させる。 ・樹勢が弱い場合は、早めに行う。 ・電照開始2週間後に、効果があるかどうか判断する。 ・収穫最盛期頃から電照時間を延長する(日長型4～6時間、間欠型20～30分) ・厳寒期は徒長しにくいので照明時間は長く保つ。 ・徒長した場合は、電照を10～14日間休み再電照を行う。 ・無電照の場合は、ジベレリンの芯処理(5ppm～)を行い、以降14日間隔で芯葉を見てジベレリン5ppmを芯を中心に莖葉散布を行う。(使用回数6回以内)	<b>&lt;かん水間隔の目安&gt;</b> 圃場条件や天候によって変える。 9月(活着後)～11月 3～5日おき 12月 2日おき 1～2月 2～3日おき 3～5月 1日おき <b>&lt;病害虫対策:スリップス&gt;</b> ・侵入防止のためサイド・妻面に防虫ネット(スリムホワイト、赤色ネット等)を展張する。 ・ビニール被覆後、1番花開花する頃に天敵(ククメリス等を放飼する。 <b>&lt;灰色かび病対策&gt;</b> 早めに加温機の点検を行い、湿度が上がらそうときは夜間に加温機を稼働させ湿度を下げるようにする。
	中				
	下				
11	上	普通ポット 1番果摘果 電照開始 加温機の準備 収穫開始(株冷) 病害虫防除	<b>マルチ被覆</b> 蜂入れ スリップス <b>ビニール被覆</b> <b>病害虫防除</b> ハダニ、アブラムシ 灰色かび病	・マルチ被覆までは、クラウンと畝の肩部が乾燥しないようにかん水するが、生育が旺盛になる様であればかん水の間隔をあける。 ・基本的に定植直後の液肥のかん注はしないが、活着が悪い場合は1～2回液肥、発根剤を施用し活着させる。 <b>&lt;マルチ被覆&gt;</b> ・第2果房の分化確認後、被覆を行う。 ・被覆後は、乾燥に注意しながらマルチの裾はめくっておくが、乾燥がひどい場合は早めにおろす。 <b>&lt;ビニール被覆&gt;</b> ・第1果房が出蕾～開花する頃(目安10/20～10/30)に行う。 ・被覆後は高温になりやすいので、温度管理に注意する。サイド、妻面も換気できる範囲で換気に努める。北西風による乾燥で莖葉が傷まないように注意する。 <b>&lt;灰色かび病対策&gt;</b> ・第1果房の頂果～3果までは花弁を手で除去する。 <b>&lt;休眠防止対策(電照)&gt;</b> ※電照は、芯葉の色、状態、着果負担を考慮して行う。 開始時期:株冷11/15～20日頃 普通 11/25以降 処理時間:間欠型 日没から日の出まで1時間に15分照明 日長延長型 連続照明時間を2～3時間から始め草勢に応じて調整する。 ・第1葉が厚い葉を常に展開させる。 ・樹勢が弱い場合は、早めに行う。 ・電照開始2週間後に、効果があるかどうか判断する。 ・収穫最盛期頃から電照時間を延長する(日長型4～6時間、間欠型20～30分) ・厳寒期は徒長しにくいので照明時間は長く保つ。 ・徒長した場合は、電照を10～14日間休み再電照を行う。 ・無電照の場合は、ジベレリンの芯処理(5ppm～)を行い、以降14日間隔で芯葉を見てジベレリン5ppmを芯を中心に莖葉散布を行う。(使用回数6回以内)	[電照:蛍光灯の注意事項] ①1時間長めに電照する。 ②株位置より1m以上高めに設置 ③間欠照明はしない。 <11/下～12/上頃までの温度管理の目安> (夜温が8℃前後の時期) 午前:早朝換気を行い、ハウス内湿度を下げる。日中は25℃以上にならないように早めに換気を行う。 午後:20℃以上にならないように換気する。 夕方:できるだけ閉めるのを遅らせる。 夜温:8℃以上は開放
	中				
	下				
12	上	普通ポット 収穫開始(普通ポット)	<b>マルチ被覆</b> <b>ビニール被覆</b> <b>収穫</b> <b>病害虫防除</b> 灰色かび病	<b>&lt;追肥及びかん水&gt;</b> ・マルチのすそを通路に下ろしたら、畝の肩部、株元に十分に湿るようにかん水する。通路に水が溜まらないよう少量多回数行う。 ・発根促進剤は11月から月に2～3回施用する。(例:美果多 5kg/10a/回) ・年内～1月までは追肥は基本的に施用しないで良い。樹勢が弱いようであれば、1回あたりN成分0.1～0.2kg/10a程度を施用する。	・直接冷たい風が当たらないように谷部、サイドにワンクッション換気を設置する。 <b>&lt;蜂の取り扱い&gt;</b> ・農業については蜂への影響を考慮し、散布する。 ・巣箱は移動させない。
	中				
	下				

△定植    =マルチ被覆    ∩ビニール被覆    □収穫

月	旬	作型	主要作業	作業の要点	備考				
1	上	2番果摘果 葉かぎ 病害虫防除 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スリップス・ハダニ</span>		<p>&lt;摘花(果)&gt; 草勢や花房間葉数に応じて果実数を調整する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株の状態にかかわらず、15果/株以上つけない。</li> <li>・草勢強15個程度、中12個程度、弱10個程度。</li> <li>・第2果房が連続して出蓄している圃場は、さらに2~3個強めに摘果する。</li> </ul> <p>&lt;葉面散布&gt;</p> <p>着果負担がかかり株が弱い圃場では、なり疲れ防止のため、葉面散布を定期的を実施する。</p> <p>例)微量要素系・アミノ酸の葉面散布を行い、光合成を促進させる。</p> <p>&lt;玉だし&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1果房はしなくてよい。</li> <li>・第2果房以降は、草丈が35cm以上になって収穫作業に支障をきたす場合にひも等で軽く行うと良い。(ただし過度の葉よけはしない。)</li> </ul> <p>&lt;追肥&gt;</p> <p>1月下旬~2月上旬頃から追肥を開始する。1回あたりN成分で0.1~0.2kg/10a(山型肥料:園芸アミノ2号等)</p>	<p>&lt;12/中~3/上頃までの温度管理の目安&gt;</p> <p>午前:21℃になったら1回すかし換気を行い、その後30℃以上になれば換気を行う。</p> <p>午後:27~28℃(換気した状態で)夕方:20℃を下回らないように閉める。</p> <p>最低夜温:6℃(暖房の場合の実温)</p> <p>※早朝加温(日の出前2時間程度)。実温8℃程度)</p> <p>&lt;病害虫対策対策:スリップス&gt;</p> <p>天敵(クメリス)は厳寒期の活動が鈍くなるため、追加放飼を行う。</p>				
	中			<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>		<p>&lt;曇雨天時の湿度コントロール&gt;</p> <p>灰色かび病感染好適条件を少しでも減らすことが出来るように、4段サーモ付き暖房機の夜間の温度管理を下記のように設定する方法がある。</p> <p>○温度設定の内容</p> <p>(時間帯:設定温度)</p> <p>① 2:00~2:30 : 20℃</p> <p>② 2:30~4:30 : 5℃</p> <p>③ 4:30~5:00 : 20℃</p> <p>④ 5:00~翌2:00 : 5℃</p> <p>上記の①と③の時間帯は必ず暖房機が稼働する温度、②と④は停止する温度に設定することが重要。</p> <p>&lt;下温処理方法&gt;</p> <p>1回目:3/10を目安に実施 クレフノン10kg+固着剤/100L</p> <p>2回目:4月中旬を目安に実施 クレフノン10kg+墨汁400~500ml +固着剤/100L</p>			
	下			<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>					
2	上			電照終了 下温対策 病害虫防除			<p>&lt;収穫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として完着収穫を行う。</li> <li>・3月以降、7分着色収穫へ切り替える。</li> </ul> <p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝の果実温度が上がらないうちに収穫し予冷を十分かける。</li> <li>・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う。</li> <li>・追肥を7~10日間隔(N成分で0.1~0.2kg/10a)で実施する。</li> <li>・3月10日頃に下温処理(寒冷紗、クレフノン散布等)を行い、軟果を防止する。</li> <li>・3月中旬以降は、換気を行わないと果皮が軟らかくなり、食味が低下するため、しっかりと湿度を抜くような管理を行う。</li> <li>・裂皮果が発生してしまうので、収穫までの日数をかけないような温度管理を行う(午前中は蒸しこまず、午後からの温度を高めにもっていく)</li> </ul> <p>&lt;ハウスかたづけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病、萎黄病罹病株のクラウン部を含む残渣はハウス外に持ち出し適正に処分する。</li> </ul>	<p>&lt;温度管理の目安3月中旬以降&gt;</p> <p>3月20日前後(夜温が常に8℃以上になる頃)を目安にハウスを全開放とする。</p>	
	中								<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>
	下								<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>
3	上	電照終了 下温対策 病害虫防除	<p>&lt;収穫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として完着収穫を行う。</li> <li>・3月以降、7分着色収穫へ切り替える。</li> </ul> <p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝の果実温度が上がらないうちに収穫し予冷を十分かける。</li> <li>・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う。</li> <li>・追肥を7~10日間隔(N成分で0.1~0.2kg/10a)で実施する。</li> <li>・3月10日頃に下温処理(寒冷紗、クレフノン散布等)を行い、軟果を防止する。</li> <li>・3月中旬以降は、換気を行わないと果皮が軟らかくなり、食味が低下するため、しっかりと湿度を抜くような管理を行う。</li> <li>・裂皮果が発生してしまうので、収穫までの日数をかけないような温度管理を行う(午前中は蒸しこまず、午後からの温度を高めにもっていく)</li> </ul> <p>&lt;ハウスかたづけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病、萎黄病罹病株のクラウン部を含む残渣はハウス外に持ち出し適正に処分する。</li> </ul>		<p>&lt;温度管理の目安3月中旬以降&gt;</p> <p>3月20日前後(夜温が常に8℃以上になる頃)を目安にハウスを全開放とする。</p>				
	中					<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>			
	下					<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>			
4	上			電照終了 下温対策 病害虫防除		<p>&lt;収穫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として完着収穫を行う。</li> <li>・3月以降、7分着色収穫へ切り替える。</li> </ul> <p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝の果実温度が上がらないうちに収穫し予冷を十分かける。</li> <li>・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う。</li> <li>・追肥を7~10日間隔(N成分で0.1~0.2kg/10a)で実施する。</li> <li>・3月10日頃に下温処理(寒冷紗、クレフノン散布等)を行い、軟果を防止する。</li> <li>・3月中旬以降は、換気を行わないと果皮が軟らかくなり、食味が低下するため、しっかりと湿度を抜くような管理を行う。</li> <li>・裂皮果が発生してしまうので、収穫までの日数をかけないような温度管理を行う(午前中は蒸しこまず、午後からの温度を高めにもっていく)</li> </ul> <p>&lt;ハウスかたづけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病、萎黄病罹病株のクラウン部を含む残渣はハウス外に持ち出し適正に処分する。</li> </ul>	<p>&lt;温度管理の目安3月中旬以降&gt;</p> <p>3月20日前後(夜温が常に8℃以上になる頃)を目安にハウスを全開放とする。</p>		
	中							<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>	
	下							<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>	
5	上	電照終了 下温対策 病害虫防除	<p>&lt;収穫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として完着収穫を行う。</li> <li>・3月以降、7分着色収穫へ切り替える。</li> </ul> <p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝の果実温度が上がらないうちに収穫し予冷を十分かける。</li> <li>・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う。</li> <li>・追肥を7~10日間隔(N成分で0.1~0.2kg/10a)で実施する。</li> <li>・3月10日頃に下温処理(寒冷紗、クレフノン散布等)を行い、軟果を防止する。</li> <li>・3月中旬以降は、換気を行わないと果皮が軟らかくなり、食味が低下するため、しっかりと湿度を抜くような管理を行う。</li> <li>・裂皮果が発生してしまうので、収穫までの日数をかけないような温度管理を行う(午前中は蒸しこまず、午後からの温度を高めにもっていく)</li> </ul> <p>&lt;ハウスかたづけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病、萎黄病罹病株のクラウン部を含む残渣はハウス外に持ち出し適正に処分する。</li> </ul>		<p>&lt;温度管理の目安3月中旬以降&gt;</p> <p>3月20日前後(夜温が常に8℃以上になる頃)を目安にハウスを全開放とする。</p>				
	中							<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>	
	下							<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>	
6	上			電照終了 下温対策 病害虫防除		<p>&lt;収穫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として完着収穫を行う。</li> <li>・3月以降、7分着色収穫へ切り替える。</li> </ul> <p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝の果実温度が上がらないうちに収穫し予冷を十分かける。</li> <li>・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う。</li> <li>・追肥を7~10日間隔(N成分で0.1~0.2kg/10a)で実施する。</li> <li>・3月10日頃に下温処理(寒冷紗、クレフノン散布等)を行い、軟果を防止する。</li> <li>・3月中旬以降は、換気を行わないと果皮が軟らかくなり、食味が低下するため、しっかりと湿度を抜くような管理を行う。</li> <li>・裂皮果が発生してしまうので、収穫までの日数をかけないような温度管理を行う(午前中は蒸しこまず、午後からの温度を高めにもっていく)</li> </ul> <p>&lt;ハウスかたづけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病、萎黄病罹病株のクラウン部を含む残渣はハウス外に持ち出し適正に処分する。</li> </ul>	<p>&lt;温度管理の目安3月中旬以降&gt;</p> <p>3月20日前後(夜温が常に8℃以上になる頃)を目安にハウスを全開放とする。</p>		
	中							<p>&lt;電照終了&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月下旬頃になり1廻り大きい新葉が展開した頃終了する。</li> </ul>	
	下							<p>&lt;下温対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、展開葉が小さければ再電照する。</li> <li>・1度に切らず、徐々に時間を短くして切る。</li> </ul>	

△定植 =マルチ被覆 ◯ビニール被覆 □収穫

☆ゆめのか地床

元肥施肥例(10aあたり)

	肥料名	成分(N:P:K)	元肥	追肥 (マルチ肥)	成分量
共通	完熟堆肥		500		
	セルカ		100		
例1	楽らく莓2号	10-6-2	60	「BBいちご追肥」 40	N:10,P:6,K:2
例2	長崎いちご	4-7-2	180	「楽らく莓2号」 40	N:11.2,P:15,K:4.4